

# パワフル 女性グループ



前列左から田中さんとお昼寝中の次女明奈ちゃん（6カ月）、池田さんと長女羽実（うみ）ちゃん（1）。後列左から國田さんと長男睦貴くん（3）、菅野さん、岸田さん。卒塾後は先輩農業女性グループ「まるん塾」に入る人も多い

## 仲間とともに農業や食、地域を学ぶ

### 活動まとめた「くりやまかまどペーパー」を全戸配布

#### くりやま農業女性塾

#### 考案したレシピや農家暮らしを広く発信

3月21日に2016年度くりやま農業女性塾（以下、女性塾）を締めくくる第8回講座が栗山町内の雨煙別



塾生の1年間の学びと思い出が詰まった「くりやまかまどペーパー」

小学校コカ・コーラ環境ハウスで開かれた。田中智奈津さん（27）、池田ほろかさ

ん（33）、國田ちひろさん（37）、菅野美枝子さん（42）、岸田瞳さん（29）の5人が受講し、女性塾の1

年間の活動をまとめた「くりやまかまどペーパー」がお披露目された。

女性塾では講座を通して実感した町の農業や暮らしの魅力を多くの人たちに知ってもらうため、13年度から料理家の松田真枝さん、（株）佐藤デザイン室の佐藤裕子さん、町保健福祉課の上西洵子さ



左から講師の上西さん、松田さん、佐藤さん。事務局と共に講座の企画・運営に携わってきた（町農業振興公社提供）

にしている。

次の段階として16年度は町民に向けた情報発信を目指し、女性塾の活動の紹介をメインに据え、形状も冊子からリーフレットに変更。「くりやまかまどペーパー」として町の広報に折り込んで全戸配布することにした。この日、配布を前に刷り上がったくりやまかまどペーパーが塾生に渡され、関係者一同で完成を喜んだ。

#### 9年間で延べ1200人経営や暮らしを豊かに

女性塾は、（一財）栗山町農業振興公社が町内の若手農業女性を対象に開催。その目的は大きく二つある。

一つは若手農業女性に農業や食や地域について学んでもらい、自身の経営や暮らしをより豊かなものにし、地域活性化にも生かしてもらうこと。もう一つは、農業者との結婚や新規就農を機に栗山に来たため地域に知り合いが少なく、幼い子どもがいて外出の機会も減りがちな女性たちに、子連

れで気軽に参加できる仲間づくりの場を提供することだ。

08年度に空知農業改良普及センター空知南東部支所が事務局となつて塾生15人でスタート。10年度から町農業振興公社が事務局を引き継ぎ、9年間で延べ1200人が入塾している。

#### 「地産地消」テーマに先進農家やシェフ訪問

16年度は塾生12人が地産地消をテーマにした8回の講座を受講した。

まず町内の農産物や美しい景色などの写真が付いたカードをみんなで話し合い



市街地の母親たちと行った料理教室で、塾生が自分の経営や暮らしを発表（町農業振興公社提供）

ながら地図上に並べていく講座を行い、町の農業や暮らしの魅力を再確認。農家の定番料理であるバーベキューを行った講座では、互いのノウハウを伝授し合い、講師から新たな野外メニューも教わつて、バーベキューの楽しみ方の幅を広げた。札幌市出身で町内の農家に嫁いだ國田さんは「バーベキューが一番楽しかった」と話す。17年度から本格的に経営に加わる予定で「どれだけ講座に参加できるか分からないが、できる限り参加したい」と意欲的だ。

また市街地に住む親子と一緒に町内産食材を使った料理教室を開いたほか、自家農産物を使ったクッキーなどの菓子製造を手掛ける水上由美子さんに6次産業化のポイントを聞いた。さらに町外の視察研修も実施。北広島市の農業体験施設「くるるの杜」や女性塾の運営にも携

わつた元農業改良普及センター職員の増澤宇一さんの農園、自家産トマトでつくったケチャップを販売する江別市の岡村恵子さんを訪ね、同市のフレンチレストラン「シエ・キノ」に町内産食材を持ち込み、それらを使った料理も堪能した。塾生の岸田さんと田中さんは姉妹で、町内の農家出身。実家を継いだ岸田さ

んは「町外の先進的な農家やシェフなど、いろいろな人と話せるのが面白い」と講座から刺激を受けている。町内の農家に嫁いだ田中さんは「女性が外出する機会が少ないので、女性塾がいいリフレッシュの場になっている。家族が早く送り出してくれるのがありがたい」と話す。

#### 「ここで仲間ができた」楽しんで肩肘張らずに

この日は16年度の卒塾式も行われた。卒塾のタイミングは各自に任ざられており、今年度の卒塾生は3人。唯一、式に出席できた菅野さんに卒塾証書が授与

された。菅野さんは福島県から移住し、2年の研修を経て14年に和牛繁殖経営を開始。女性塾には12年度から5年間参加した。「入塾したのは研修生のころ。子どもは保育園でも気軽に声を掛けられる仲間ができ、とても心強かった。卒塾はするが、今後ともよろしくお願ひします」とあいさつした。

最後にお茶を飲みながら、1年の活動を振り返つた。15年に東京都から移住し、現在、就農に向けて研修中の池田さんは「ここで友達が増えた。子育ての情報交換ができるのがうれしい」と笑顔を見せる。

事務局を務める町農業振興公社の仁平竜太さん（37）は「女性塾は、学習する場。だが、農家の嫁になつた楽しみや喜びを共有できる仲間であることも忘れず、肩肘を張らず事業を続けていきたい」と語る。楽しみながら学び、発信する塾生たち。栗山町の食や農業を担う人材が着実に育っている。（小西 淳子）